



## 振り付けと衣装について

1. 挑発的、攻撃的もしくは卑猥な振り付け、衣装、化粧および音楽は、家族連れの観客が見るに不相応であり、観客へのアピールを欠くこととなる。
2. 演技の振り付けは、適切且つ全ての観客を楽しませるものであること。挑発的、もしくは卑猥な要素は、不適切、あるいはいかかがわしいものをほめかすもの、攻撃的、あるいは性的な内容を表すもの、わいせつな、あるいは下劣なジェスチャーを含む動きや振り付けとみなされる。
3. 各チームは演技フロアに汚れを残さないこと。（例：スプレーやパウダー、オイルなどの付着、残留）
4. 火や有毒ガス、動物など危険を伴う物の使用は厳重に禁止される。
5. 不適切な振り付け、衣装および音楽は、審判の演技全体に対する印象や得点に影響を与える。
6. 全ての衣装、メイク、振り付けは年齢相応で、家族連れの観客がみるにふさわしいものであること。
7. 全ての衣装は、安全かつ全身を覆うものであること。体を露出する衣装は失格の事態を招く恐れがある。
8. ブリーフ、ホットパンツ等、極端に短いショートパンツ類の下にはタイツを着用すること。
9. 大会中は靴を着用すること。ダンスポウは可。裸足、靴下またはタイツ、ハイヒール、ローラースケート、ローラーブレードおよび、その他スポーツにふさわしくない履物で演技を行うことは禁止。不明な点がある場合は、ICU 規則管理委員会まで問い合わせること。
10. 衣装の一部としてのアクセサリ類は可。
11. 全ての男性選手の衣装は、前面が全て覆われた シャツを含むこと。ノースリーブは可。
12. チアやチャントは禁止。

## モビリティおよびサポートデバイスのルール

注：以下の「車椅子」という用語の使用は、スクーターおよび該当する同様のモビリティデバイスの使用にも適用される。

### スペシャルオリンピックスおよびスペシャルアビリティーズ部門のみ

1. 電動車いす以外を使用する選手：
  - a. 最低 2 つの車輪が演技フロアに接触していなければならず、さらに安全のための適切な転倒防止装置を装着していること（または両足をしっかり演技フロアにつけたブレイサーが両手で車いす背部の 2 つの手押しハンドルをつかみ、両輪が演技フロアについた状態であること）。
  - b. 技を基礎とする場合—ブレイサー使用せず、両足をしっかりと演技台に乗せ、両手で 2 本のバックハンドルを握り、両輪を演技台に乗せた状態で車椅子を安定させること—車輪をロック位置にすること。
2. 電動車いすを使用する選手は、常にすべての車輪が演技フロアに接していなければならない。
3. 選手を車いすから持ち上げることはできるが、車いすを演技フロアから持ち上げることはできない。
4. 車いすの選手が動き出したらコーチ/チームマネージャーは、車いすが止まるまで選手と一緒にいなければならない。

補足：動き出すのに補助が必要な車いすの選手は、押したり離したりすることはできない。



## カテゴリー定義

**フリースタイルポン** 演技全体を通してPomを使用することが求められる。シンクロ性と視覚効果を含み、正確なPomのモーションやダンステクニックの要素が組み込まれているかどうか重要なポイントである。モーションにはシャープで、クリーンで、正確さが求められ、チームがシンクロし、“ひとつ”に見えることが大切である。構成にはレベルチェンジ、グループワーク、フォーメーションチェンジなどの視覚効果が重要である。PomのルーティンはJazzやHip-Hopの要素を織り交ぜつつも、トラディショナルなチアリーディングのテーマを伝えることが重要である。詳細については、スコアシートを参照。

**ヒップホップ** 実施、スタイル、創造性、ボディアイソレーションやボディコントロールを強調した、ストリートスタイルの動きが取り入れられたルーティンであること。演技全体を通して、動きの一体感や音楽のビートやリズムを伝えることが求められる。ジャンプやジャンプバリエーション、ジャンプコンビネーション、ストールやフロアワークなどを取り入れることでHip-Hopならではの効果を加えることができる。ヒップホップ文化を反映した衣装やアクセサリを着用すること。詳細については、スコアシートを参照。

**ジャズ** -スタイルに見合った動きとコンビネーション、フォーメーションチェンジ、グループワーク、ダンステクニック要素が組み込まれているルーティンであること。演技全体を通して、動きの連続性とチームの均一性が求められる。正しいダンステクニックの実施、身体の伸び（引き上げ）、ボディコントロール、ボールチェンジなどのバレエを基礎としたボディワークは非常に重要である。詳細については、スコアシートを参照。

## スペシャルオリンピックスおよびスペシャルアビリティーズ パフォーマンスチア部門\*

### 規則/基準

- \*全てのICUスペシャルオリンピックスとスペシャルアビリティーズパフォーマンスチア(Pom & Hip Hop)部門のルール/基準は、特に明記されていない限り、ICUスペシャルオリンピックス/スペシャルアビリティーズのユニファイド部門とトラディショナル部門の両方に適用される。
1. 全てのパフォーマンスチアICU一般規則およびガイドライン、移動および補助機器ルール、ルーティン要件が適用される。
  2. 選手による介助動物の利用は可（ICU一般規則およびガイドラインでは禁止されている）
  3. 全てのスペシャルオリンピックスのユニファイドナショナルチームは、知的障害のある選手と知的障害のない選手の比率が1:1になるように構成しなくてはならない。
  4. スペシャルオリンピックスおよびスペシャルアビリティーズのトラディショナルナショナルチームは、必ず知的障害のあるアスリートのみで構成しなくてはならない。
  5. 最大3名のコーチやアシスタントがマットの正面から合図を送ることは可能だが、審判の視界を妨げてはならない。さらに、フロア周辺でしゃがんだ状態のアシスタントの人数に制限はない。
  6. アシスタントは選手とはまったく異なる衣装を着用し、審判員が常に選手とアシスタントを明確に見分けられるようにしなくてはならない。例えば選手が暗い色の衣装やユニフォームを着用していれば、アシスタントは明るい色のTシャツとズボンを着用しなくてはならない（逆も同様）。アシスタントはルーティン中にチアリーディングまたはパフォーマンスチアの衣装やユニフォームを着用してはならない。
  7. アシスタントは運動靴やパフォーマンス用シューズ（サンダルなどは不可）を着用するものとし、選手の安全のためにアクセサリ類は一切身に付けてはならない。
  8. スペシャルオリンピックス/スペシャルアビリティーズのユニファイドチームのみ：ユニファイドパートナーが行う技の難度は、知的障害のあるアスリートが行う同等の技の難度を超えてはならない。



9. 知的障害または神経症状のあるアスリートについては、環軸椎不安定症または脊髄圧迫症に関連する身体状態を持っている可能性がある場合は、AAIまたは脊髄圧迫に関連する身体疾患を持つアスリートに危険をもたらす可能性のあるスキル（前転、後転、AAIまたは脊髄圧迫を持つアスリートを危険にさらす可能性のあるスキルなどを含むがこれに限定されない）は厳禁とする。身体活動の前に、医療専門家による書面による承認/許可、およびすべての権利放棄と書類の46の証明は、チームディレクターとコーチの直接の責任である。スペシャルオリンピックスチームについては、さらに、医療専門家による承認/クリアランス（公式医療免責および文書による）が、それぞれのスペシャルオリンピックスプログラムまたはスペシャルオリンピックスによって承認され、クリアランスされなければならない。

## パフォーマンスチア部門

### ジャンル別規定

注）スペシャルアビリティーズ/スペシャルオリンピックスパフォーマンスチアジャンル別部門規定（ポム、ヒップホップ）とアダプティブアビリティーズ、ユニファイド、ユース、ジュニア、シニアのジャンル別競技規定が異なる。

## ポン部門ースペシャルアビリティーズおよびスペシャルオリンピックス 部門のみ

### 個人で行う技について

タンブリングおよびエアリアルでないストリートスタイルの技は以下の制限内で実施可能であるが必須ではない。

- 逆さの状態の技：
  - 空中で行わない技（例：三点倒立）は実施可能だが、少なくとも常に片手で補助しなければならない。
  - 逆さの状態の技を補助する手にポンおよび衣装の一部（例えば振付に使用するもの）を持った状態での実施は不可。
  - 空中での逆さの状態の技は禁止。
- 腰が頭を越える回転技：
  - 空中での実施は禁止。
  - 2連続回転まで実施可。
  - 体を支える手に何かを持った状態での実施は不可。例：腰が頭を越える回転技を補助する手にポンおよび衣装の一部（振付のために利用するものなど）を持った状態での実施は不可。（例外：前転又は後転は実施可）
- 同時にタンブリングし、選手同士がお互いの体の上下を通過する技は実施不可。
- 手や足以外の部分での着地は禁止。
- いかなる種類であれジャンプから演技フロアへの腕立て伏せのポジションでの着地は禁止。

### グループやペアで実施するものについて

リフトおよびパートナーリングは独立して実施可能だが、コーチやアシスタントが追加スポッターとして付いた場合のみ、以下の制限内で実施可。

- 実施選手の腰の高さがサポート選手の頭の高さを超えるリフトは行ってはならない。
- 実施選手は、演技フロアに直接接しているサポート選手1名以上と接触し続けなければならない。
- 技全体を通して、サポート選手1名以上が実施選手と接触し続けなければならない。
- 実施選手が演技フロアから持ち上げられている場合は、実施選手の腰が頭の高さを超える回転技および逆さの状態の技は禁止。

### グループやペアで実施するものについてー演技フロアへの着地

- 実施選手を演技フロアにリリースしてはならない。



## ヒップホップ部門—スペシャルアビリティーズおよびスペシャルオリンピックス 部門のみ

### 個人で行う技について

タンブリングおよびエアリアルでないストリートスタイルの技は以下の制限内で実施可能であるが必須ではない。

1. 逆さの状態の技：
  - a. 空中で行わない技（例：三点倒立）は実施可能だが、少なくとも常に片手で補助しなければならない。
  - b. 逆さの状態の技を補助する手に衣装の一部（例えば振付に使用するもの）を持った状態での実施は不可。
  - c. 空中での逆さの状態の技は禁止。
2. 腰が頭を越える回転技：
  - a. 空中での実施は禁止。
  - b. 2連続回転まで実施可。
  - c. 体を支える手に何かを持った状態での実施は不可。例：腰が頭を越える回転技を補助する手に衣装の一部（振付のために利用するものなど）を持った状態での実施は不可。（例外：前転又は後転は実施可）
3. 同時にタンブリングし、選手同士がお互いの体の上下を通過する技は実施不可。
4. 手や足以外の部分での着地は禁止。
5. いかなる種類であれジャンプから演技フロアへの腕立て伏せのポジションでの着地は禁止。

### グループやペアで実施するものについて

リフトおよびパートナーリングは独立して実施可能だが、コーチやアシスタントが追加スポッターとして付いた場合にのみ、以下の制限内で実施可。

1. 実施選手の腰の高さがサポート選手の頭の高さを越えるリフトは行ってはならない。
2. 実施選手は、演技フロアに直接接しているサポート選手1名以上と接触し続けなければならない。
3. 技全体を通して、サポート選手1名以上が実施選手と接触し続けなければならない。
4. 実施選手が演技フロアから持ち上げられている場合は、実施選手の腰が頭を越える回転技および逆さの状態の技は禁止。

### グループやペアで実施するものについて—演技フロアへの着地

リフトおよびパートナーリングは独立して実施可能だが、コーチやアシスタントが追加スポッターとして付いた場合にのみ、以下の制限内で実施可。

1. 実施選手の腰の高さがサポート選手の頭の高さを越えるリフトは行ってはならない。
2. 実施選手は、演技フロアに直接接しているサポート選手1名以上と接触し続けなければならない。
3. 技全体を通して、サポート選手1名以上が実施選手と接触し続けなければならない。
4. 実施選手が演技フロアから持ち上げられている場合は、実施選手の腰が頭を越える回転技および逆さの状態の技は禁止。

### グループやペアで実施するものについて—演技フロアへの着地

1. 実施選手を演技フロアにリリースしてはならない。